

保護者のみなさまへ

小野市立市場小学校長

令和5年度 全国学力・学習状況調査の結果について

4月18日(火)に全国の小学校6年生を対象に「全国学力・学習状況調査」が実施されました。教科に関する調査〔国語・算数〕、質問紙調査〔学習面・生活面等〕でした。個人票については、すでに9月に配布しております。本校の概要についてお知らせし、今後の学習指導や生活指導の手立てに活用したいと考えておりますので、保護者の皆様のご支援ご協力をお願い申し上げます。

1 生活・学習状況について

◎優れている生活・学習状況(※パーセント結果は、している・どちらかといえばしている)

	質 問 内 容	本 校
1 生活習慣	毎日朝食を食べている	92%
	毎日、同じくらいの時刻に寝ている	87%
	毎日、同じくらいの時刻に起きている	94%
2 自尊感情と 心の成長	人が困っているときは、進んで助けている	92%
	いじめは、どんな理由があってもいけないと思う	100%
	人の役に立つ人間になりたいと思う	98%
	学校に行くのは楽しい	90%
	友達関係に満足している	96%
3 学びに 向かう力	普段の生活の中で、幸せな気持ちになる(ウェルビーイング)	94%
	PC・タブレットなどのICT機器を使うのは勉強の役に立つと思う	96%
	国語の勉強は大切だと思う	98%
	国語の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役立つと思う	96%
	算数の勉強は大切だと思う	90%
	算数の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役立つと思う	90%
	英語の勉強は大切だと思う	94%

●課題が残る生活・学習状況

	質 問 内 容	本 校
4 活字から 情報収集	学校の授業時間以外に、普段(月～金)、1日30分以上読書をする	48%
	新聞を読んでいる(週に1～3回以上)	14%

【考察(生活・学習状況について)】

- 【**前頭前野の発達による心身の成長**】『1 生活習慣』において、児童は、東北大学川島教授が提唱している『早寝・早起き・朝ごはん』の習慣ができています。また、『2 自尊感情と心の成長』から日常生活において社会のルールを守るなどの児童の規範意識が高いのは、道徳性の高い各家庭の教育力とともに、地域の方々が本校児童を『地域の宝』として温かく見守ってくださるからです。『3 学びに向かう力』は、学校・家庭で継続している『おの検定』・『ひまわりカード(食育調査)』など脳科学理論に基づいた「前頭前野」を発達させるための取組により『学びに向かう力』の意識向上が成果として表れています。
- 【**知識と感性を育む読書**】4月から実施している読書活動や校長室前に連載新聞のコーナーなどを活用し、全校児童に話した『読書脳』を発達させていく必要があります。本や教科書を読むだけでなくアウトプット(話す、書く、行動する)することで、「結晶化された知識」を蓄えていきます。そして、知識とともに豊かな感性を育むことが大切です。
- 【**学びに向かう力の育成をめざす家庭学習**】南中校区小中一貫教育で共通理解していることですが、マイスタ(発達段階に基づく自主学習ノート)などを含めた家庭学習の内容と時間が大切です。南中校区家庭学習の手引きにも記載(学年+10分～ 例:4年生50分～)しております。また、ゲーム・スマホ・ネットの1日の使用

時間が1時間以内、使用時刻が午後9時までの約束を守ることです。東北大学榊助教が、前頭前野の『自己管理能力』でスマホから身を守ることを提唱しています。例えば、家庭学習の課題(宿題)として、PC・タブレットなどのICT機器を使用して英語の音声を聞いたり英語を話す練習をしたりすることもアンケート項目に入っていたので、上手に活用することもおすすめします。今までのように継続して家庭学習の充実を図ることが更に学力向上につながります。

2 国語【知識・技能】【思考・判断・表現】

◎ 優れている問題

- ①原因と結果など情報と情報の関係を理解して選択する。
- ②図表やグラフなどを用いて、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫する(時数制限)。
- ③文の中で正しく漢字を使う(いがい[意外])。
- ④文章を読んで理解したことに基づいて、自分の考えをまとめる(時数制限)。
- ⑤必要なことを質問しながら聞き、話し手が伝えたいことや自分の聞きたいことを中心に捉える。

● 課題が残る問題なし

3 算数【知識・技能】【思考・判断・表現】

◎ 優れている問題

- ①()を用いた式や、加法と乗法の混合した式を読み取る
- ②小数の加法や乗法の求め方と答えを式や言葉を用いて記述し、条件にあてはまるかどうか判断
- ③「以上」の意味を理解し、示された表から必要な数を読み取る
- ④示された棒グラフと、複数の棒グラフを組み合わせたグラフを読み、見いだした違いを言葉と数を用いて記述する

● 課題が残る問題

- ①伴って変わる二つの数量の比例の関係にあることを用いて、知りたい数量の大きさの求め方と答えを式や言葉で記述できる
- ②百分率で表された割合を理解する

【考察(国語・算数)】

- 【フィードバックの重要性】学習内容を定着させるために、インプット(読む・聞く)とアウトプット(話す・書く・行動する)を繰り返すことだけでは飛躍的に自己成長できません。次のインプットの前に『フィードバック』することが大切です。『フィードバック』とは、見直し、反省、改善、原因究明です。きちんと復習して、同じような間違いをしないように直すことです。そのために家庭学習(宿題を含む)の充実が必要です。
- 【的確に伝える力の向上】国語では、「漢字」「読み取り選択」「文章でまとめる(時数制限)」の問題で良好な結果が出ています。基礎学力(漢字の書き取り・辞書引き学習)定着や授業において、『対話的』・『批評的読みの視点』・『ノート指導』・『振り返り』ができています。今後の対策として、低学年の段階から自分の考えとその根拠となる叙述や資料をセットにして書くことができる授業展開を続けていきます。
- 【割合(見比べ)の課題解決】算数では、「数と計算」「図形」「変化と関係」「データの活用」の問題でおおむね良好です。「ふきだし法」等の学習やプログラミング学習の取組により、具体的な場面で見まりを見つけ、筋道を立てて発展的に考察する力が定着しています。課題としては、 $30\%=0.3$ 倍、 $3/10$ 倍という概念はわかるが、『10人のうち3人が30%』と認識できていない児童が多いため、図や絵で示したり、日常生活の中で使っていることを活用したりすることが大切です。また、本年度からプログラミング学習の中でも、割合に関する教材を取り入れ、課題を解決することをめざしています。

4 今後の取組について

以上のように保護者や地域の皆様のご指導、ご支援により、市場っ子の生活面や学習面において、大変良い成果が出ております。これも『水辺の楽校』『登下校見守り隊』『地域行事』等の皆様の支えがあってのことだと考えます。心より感謝申し上げます。さらに、課題を改善していくために学校と家庭、地域が連携して取り組んで参りますので、ご理解、ご協力をよろしくお願い申し上げます。